

第三回館山市議会议定例会議録（第三号）

一、昭和五十六年九月十八日（金曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十六名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一六番 押元 稔	一七番 黒川 平治
一八番 流山 源次郎	一九番 石井 輝久
二〇番 石井 武敏	二一番 吉田 勇治郎
二二番 藤田 益治	二三番 菊井 敏博
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二八番 安澤 徳順
二九番 安西 益男	三〇番 山口 康

欠席議員 一名

二七番 石井 正

出席説明員

第一号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第三号）

昭和五十六年九月十八日午前十時開議

議案第四十四号 財産の取得について

日程第一 議案第四十五号 市道路線の認定について

議案第四十六号 市道路線の廃止について

日程第二 議案第四十七号 昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第四号）

認定第一号 昭和五十五年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十五年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十五年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十五年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十五年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

認定第七号 昭和五十五年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

日程第四 請願第三号 農地固定資産税に関する請願書

日程第五 請願第四号 「臨調答申」に反対する意見書の提出をもとめる請願書

開 議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

議 午前十時三分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十六名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第四十四号乃至議案第四十六号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 議案の第四十四号、財産の取得につきまして通告してございますので御質問いたします。

この城山公園の整備につきましては、これをぜひ推進していただきたいという住民からの希望が多く寄せられた経過のある事業でございます。公園の整備は、市民の憩いの場であるとともに、市以外の方々が訪れても十分に心を潤す風物と施設を整えることが望ましいのであります。特に、城山公園といえは館山市を代表する公園であります。

さて、今回の用地取得に関しまして、いさ少しく御説明を願いたいと思うのでございます。

第一点は、今回取得をする土地は、取得を目標としている土地

の何処に当たるかという問題であります。参考として図形が出てきておりますが、図形だけで掌握しにくいので明らかにしていただきたいと思ひます。

第二番目は、取得をする土地の図形からいまして、将来建築をする建物、設備、予定されているそれらのものとの関連についてお伺いをしたいと思ひます。今回、取得を目標としているこの部分は施設から見てどういふ部分に当たりますか、御説明を願ひたいと思ひます。

三番目に、今回取得を計画している土地の交渉にあたりまして、問題となった点は何かということでございます。

四番目、また関連として、将来取得をしていかなければならない土地に関しましての取り組みはどのようにしているかとするのか、また予想される問題点は何か。

以上、四点にわたって御説明願ひたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

御質問の第一点は、今回の城山公園用地取得は目標面積の何割ぐらいに当たるかという御質問でございますが、この計画は、計画全体が三十件、九十六筆、台帳面積でいいますと二万四千三百九十六・五七平方メートル、実測は三万二千七・一二平方メートルでございます。今回の買収は、十二件、二十六筆、台帳面積六千四百三十二平方メートル、実測九千七百二十・四五平方メートルでございますが、目標面積に対しまして実測では三二・四％に当た

ります。すでに市及び関係機関により買い上げ済みのものの合計が七千九十五・八四平方メートルございますので、合わせますと一万六千八百十六・二九平方メートルでございます。目標に對しまして五六割の用地を取得することになるわけでございます。

御質問の第二点、取得する土地の位置でございますが、幹線道路部分と万葉植物園の予定地と、その他博物館本館と芝生広場を計画している一部でございます。

第三点は、買取交渉上で問題となったことは何かという御質問でございますが、今回は地権者は十三名、このうち市外居住者が九名ございましたが、公共用地であることから、快く協力していただきまして、特に問題となったものはございません。

第四点、将来の用地取得の考え方と予想される問題点という御質問でございますが、未買収地の現状は、代替を希望するものが四件でございます。台帳面積四千五百五十二平方メートル、相続権の関係で困難なものが四件、千百八十平方メートル、売りたくないとおっしゃる方が二件で二千五百四十七平方メートル、団体持ちで役員会に協議をお願いしているものが一件、五百六十平方メートル、それから了解あるいはその見通しのあるものが四件で千九百九十平方メートルでございます。これらの土地は、主として駐車場、疎林広場、芝生広場等の計画地でございます。どうしても必要となる土地でございます。この土地につきましては特に地元の方々の協力を得まして交渉を続けつつありますが、さらに調査を進め、密接に話し合う中で問題解決をしまして、地主さんの協力が得られるよう努力をいたしていきたいと考えております。

〇二〇番（石井武敏君） ただいまの御答弁であらう理解できましたが、これから取得をする土地の部分が非常に困難性を帯びているような感じを受けました。

ところで、いままでは快く協力してもらって、公共用地として使ったからということ、非常に理解のある交渉が進められたようではありますが、そこで売る側の税の優遇措置についてお尋ねするものでありますけれども、税の優遇措置——市のほうで買い上げるわけですから、売るほうでは所得があるわけですので、そのへんの優遇措置について、その範囲とか、また優遇の種類をお示し願いたいと思います。

それから、御答弁ではこれから買い上げていく土地、これは説明がありましたように駐車場、疎林広場ですか、この駐車場は台駐車を予定される駐車場ですか。それから疎林広場というものの、そのものがもう少し具体的に、どういう広場になるのか御説明を加えていただきたいと思います。

また、これから買い上げていく土地の価額といいますが、その土地の値段を値ぶみしていく段階におきまして、どのような措置が市としてはとられるんでしょうか。

以上、お尋ねいたします。

〇経済部長（山田俊康君） 土地の優遇措置でございますけれども、これは都市計画決定しておりますので、土地収容法の対象になっております。一事業、一件、三千万円まで控除になるという優遇措置が設けられております。

疎林広場でございますけれども、疎林広場につきましてはふだんはいろんな軽スポーツ等ができるような、木を植えてある部分

が非常にまばらな広場。催し物等がありますとき、たとえば花見の時期等については、その運動広場を駐車場にも利用できるようにというような考え方で、ピーク時には車の駐車場にも利用できるようにという考えでございます。

それから、土地の価格決定にあたりましては、不動産鑑定士の鑑定評価を参考として決定しております。

駐車場数でございますけれども、乗用車が、ふだんの場合ですと三十三台、バス五台、計三十八台でございます。先ほど申し上げました疎林広場を使いますと、バス三台、乗用車七十九台、疎林広場だけで八十二台、合計で乗用車が百十二台、バスが八台、総合計で百二十台の駐車が可能です。

○二〇番（石井武敏君） 疎林広場の面積をお示し願いたいと思います。

それから、駐車場として、専門駐車場としての面積をお示し願いたいと思います。

疎林広場は、木と木の間を広くすることですが、植える木は何を予定していますか。

それから、税の問題では、三千万を超える人が予定としてございますか、御説明をいただきたいと思います。

いずれにしても、これから取得しようとする土地に関しては、代替地を要求する人が四件、相続関係がからんでいるのが四件、売らないという人が二件、団体交渉が一件というように十一件、相当困難のように思われますが、それらに対しては積極的に取り組まれるようお願いいたします。

質問としては終わりますが、お答えのほうお願いいたします。

○経済部長（山田俊康君） 駐車場の面積は、現在予定しておりますものが二千百平米でございます。

疎林広場につきましては、三千二百平米を予定してございます。三千万を超えるものはあるかどうか。五十五年度で買収しましたものにございました。今後出てくる見込みでございます。

○議長（林 豊君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第四十四号及び四十五号について質問いたします。

議案第四十四号城山公園用地の取得についてであります。二十五筆の土地についてでありますけれども、まず第一点は地目はどのようなものであるか。そして、坪当たりの単価は平均いたしますと、坪約二万円弱ということになると思いますが、二十五筆の土地の中で最も坪当たり単価の高いのは幾らで、逆に低いのは幾らであるか。そして、また最近の近隣における買収実例があればお示し願いたいと思います。

次に、議案の第四十五号市道路線の認定問題であります。昨日来コミュニティ施設等の質問もされております。そうした中でこの市道路線の認定であります。説明資料の地図によりますとコミュニティ施設予定地が国道に接していないという形になって袋路になっているわけです。こういう土地というのはあまり意味がないわけで、しかも三五一号、三五二号、六三〇号とも幅員はそれぞれ一メートル、二・六メートル、一・一メートルというところで、大変幅員も狭い道路なわけであり。こういうこと

とになっているわけで、コミュニティ施設が道路との設置面で大変心もたないと思うわけで、このへんどのようになっているのか御説明願いたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

地目は、林野、原野、畑になっております。

それから、価格でございますが、一番高い価格は——失礼いたしました。地目は一筆水田でございます。これが一番高うございまして、公園入口付近にあたりまして、平米当たり一万六千五百円でございます。一番安いのは、南西地区の傾斜が特にひどいところでございまして、平米当たり三千円でございます。

それから、コミュニティセンターへの導入路でございますけれども、今回市道の廃止をお願いしております件は、コミュニティセンター予定地内の土地については、現市道を含め市が一带として使用する予定でございますので、このうちの市道については廃止するものでありますが、コミュニティセンター外の市道については、民地への接続等もございまして、現状のまま市道として残しておかなければならないわけでございますので、この部分については認定をお願いするものでございます。

特に、御質問の国道一二八号線からコミュニティセンターへの進入道路につきましては、新しく設置をする予定でございます。

以上、答弁を終わります。

○一番(神田守隆君) 四十四号で、それぞれ一番高いところ一万六千五百円、安いところでは三千円というお話でしたけれども、最近の売買実例との比較をしたいんで、そうした点について、近

隣でそうした取引の実例、参考になるような資料をお持ちであればそれをお示し願いたいと思います。もしそれがなければ、何が金額の積算の論拠になっているのか、その御説明をお願いしたいと思います。

○経済部長(山田俊康君) お答えいたします。

今回の買収の現況はほとんどが山林でございます。この付近での売買実例はございませんでしたので、価格決定には不動産鑑定を二社にお願いいたしましたして、鑑定評価の結果を参考として、このように筆ごとの、それぞれの類似土地を区分して代表価格を——対象にして、筆ごとの算出をいたしました。

○議長(林 豊君) 以上で一番議員君の質問を終わります。

以上で通告者による質疑を終わります。

通告をしない議員で御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長(林 豊君) ただいま議題となっております議案第四十四号乃至議案第四十六号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

○議長(林 豊君) 日程第二、議案第四十七号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 今回の補正予算案につきまして御質問申し上げます。

今回の補正は、国庫支出金三百三十五万九千円、県支出金千九十五万二千円、繰越金三千五百四十二万七千円となっております。合計五千七十三万八千円ですが、私は、特にこの補正の中で福祉、観光、道路行政の推進という面から、その推進の仕方がどのように変わってきているかという面から御質問申し上げます。

初めに、一〇ページの一項目五目身体障害者用便所新築工事請負費についてであります。工事改良される所要面積等、その他整備される内容をもう少し明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、一三ページの三項一目の青柳児童遊園設置工事請負費でございますが、この遊園地の持つ広さ、面積は幾らか。また、関連しまして、現在市が遊園地として認めている条件は何があるか。たとえば、広さあるいは道路との関係、交通量との関係、環境との関係等々あると思ひますので、そのへんを御説明願ひたいと思ひます。

それから、一四ページ一項目六目の農地費に關しまして、これは農免道路の整備の事業に關する補正でございますが、この事業の内容を具体的に説明してください。また、関連をしまして、農免道路の管理と運営の面について説明をいただきたいと思ひます。

第四点目、一五ページの一項目三目観光費につきまして、観光振興基本計画策定事業委託料、これはどこに委託をするのか、委託先について御説明を求めます。

同じく、一五ページのピーチクリーナー車庫シャッター取付工事請負費ですが、関連をしまして御質問申し上げたいのですが、ピーチクリーナーについて現在の管理と運営について、どのような管理下におかれてどのように使用されているか、いさ少し説明を求めます。

第六点目、一七ページ一項目二目の通学路の新設についての測量委託料でございますが、この通学路は将来バス通学を目的としておりますので、内容的にその道路の持つ幅、広さ、使用方法等について内容を御説明いただきたいと思ひます。

次に、一八ページの三項二目校用器具費は、何を、どのくらい購入しようとするのですか。また、教育内容との関係をお示し願ひたいと思ひます。

八点目、一九ページ二目一六節のわんぱく広場新設用材料費が載っております。わんぱく広場という言葉は初めて示された言葉でございますが、新設される遊具は何か御説明を求めます。

同じく一九ページ、一目一五節道路河川の災害復旧工事請負費がありますが、この工事内容につきまして説明欄では不十分でありますので、もう少し詳しく御説明をしていただきたいと思ひます。

以上、説明をお願いいたします。

○議長（林 豊君） この際、質問の方法についてありますが、念のため申し上げます。

質問の回数は三回であります。要旨をまとめて順序よく簡明にそのつど一括をしてお願いをいたしたいと思います。

御答弁願います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、身体障害者用便所新築工事請負費についての御質問でございますが、この件については現在市庁舎には身体障害者用の便所はございませんので、来庁する身障者の方々に御不便をおかけするものと予想されますので、本館と新館との間に新築しようとするものでございます。

面積は、車いすによる機能寸法を十分考慮しまして四・八三方メートルとし、設備としましては、手すり、非常用ブザー、洗面器等の設置を考えております。

次に、青柳児童遊園に関する御質問でございますが、青柳児童遊園の面積は五百九十七・七四平方メートルでございます。

現在、市が児童遊園として認めている条件でございますが、その第一条件として、土地の確保については地元区、町内において提供すること、その他実際にについては県の児童遊園設置運営要綱の設置基準に従って実施しておりまして、これを条件としているわけでございます。その他、道路、環境との関係については、交通頻繁な地域、盛り場、小住宅集合地域等、児童が環境に恵まれない地域で、児童遊園を設置充実することによって児童の健全育成ができることを条件としております。

次に、農免道路についての御質問でございますが、御案内のよ

うに農免道路は農業生産の近代化と農業生産物の流通の合理化を図り、農村環境の改善に資することを目的として、農林漁業用揮発油税財源の身替措置の一環として実施されているものでございまして、館山市竹原横枕地先を起点として三芳村御庄地先まで全長二千四百八十メートルの新設、改良工事を施行するものでございます。

この採択基準は、事業費で二千万以上、受益面積五十ヘクタール以上、車道幅員四メートル以上となっております。事業費負担区分は国が三分の二、県が六分の一、市が六分の一ということでございます。

今回の場合には、事業認定が二地区に分割されておりまして、竹原地区は昭和五十五年度に認定を受けまして、施行延長が千八十メートル、全幅員が五メートルでございます。竹原の認定事業費は一億五千万円でございます。

竹原の二期地区でございますが、昭和五十六年度に認定を受けまして、施行延長千四百メートル、全幅員五メートル、認定事業費は一億二千四百万円でございます。

施行にあたりましては、竹原地区が昭和五十五年度に延長五百十メートル、事業費五千万円、昭和五十六年度は延長三百六十三メートル、事業費六千万円、昭和五十七年度以降に延長二百七メートル、事業費四千万円を予定しております。竹原の第二期地区につきましては、昭和五十六年度延長八十八メートル、事業費千八百万円、昭和五十七年度以降に施行延長千三百三十二メートル、事業費一億六百万円を予定しているわけでございます。

運営管理につきましては、館山市と三芳村を結ぶ基幹農道とな

りますので、完成後は当分の間、農免道路として館山市において管理を行います。

工事の委託先は、五十五年度は千葉県、五十六年度は千葉県農業開発公社に委託をいたします。

次に、観光振興基本計画策定事業委託についてでございますが、事業の委託先は、補正予算の議決後決定することになりますが、県の指導を受けながら事業目的に沿い、計画策定が適切に進められるようコンサルタントを選定してまいりたいと考えております。ピーチクリナーの車庫の件でございますが、ピーチクリナーは経済部商工観光課において管理し、有効な使用に努めております。作業にあたりましては、当初運転業務を業者に委託し、市の指示によって行っておりましたが、本年一月からオペレーターを市で雇い上げ、海浜の清掃に従事しております。

教育費の西岬地区通学用道路の件でございますが、昨日福原議員の御質問にお答えをいたしました。通学バス運行を予定しておりますので、道路幅員及び見通し等を考慮して、道路数幅十二メートルで幅員七メートルを計画しております。

次に、校用器具費でございますが、本年度事業は五十九万円で執行を予定しておりましたところ、補助金の増額の見通しがつきましたので十七万四千円を補正いたしました。顕微鏡その他を購入し、教材の整備充実を期したいと考えております。

わんぱく広場についての御質問でございますが、これは豊房小学校の校庭の南側に設置を予定しております。総額五十万円のうち原材料四十四万六千円でございます。

その内訳は、フライングネット二十七万四千円、網渡り用ロ

ープ二万七千円、ロープウェイ用滑車二万七千円、取り付け金具等四万八千円等でございます。

わんぱく広場は、本年度から始まりました県の補助事業でございます。ミニアスレチックを設置し、子どもたちの創意による自由な遊びを通して潜在危険を予測し、対処する能力や体力づくりをねらい、学校内でのけがなどの事故を少なくするためのものでございます。なお、県の補助率は二分の一でございます。

次に、道路河川災害復旧工事請負費でございますが、この千二百万円の補正については、昭和五十六年四月十九、二十日の豪雨によりまして市道洲宮布沼線の路面決壊の災害復旧工事費と、昭和五十五年八月二日から四日の豪雨による岡田川の災害復旧工事の単価更正に補正増分を計上いたしましたものでございます。

〇二〇番（石井武敏君） 再質問いたします。

初めに、身体障害者用のトイレでございますが、これは機能的にいいまして専門的な設計が必要のように思いますが、その設計は市でやられているんでしょうか、お尋ねいたしたいと思います。次に、遊園地についてであります。県の設置基準があるという事ですけれども、設置基準の中で特に強調されている点を二、三明らかにしたいと思っております。

三番目に、農免道路についてであります。館山市の管理下に置かれているということでありまして、当然破損があれば市のほうで補うという準備のあることだと解釈いたします。ところで、農免道路の幅を四メートル以上というようにしてあるということ、将来市道に移管するということが当然明らかになっていると思っております。こうした農免道路を市道に編入する時期について、

どのような時期を選んでやるのか、お示し願いたいと思います。

四点目に、観光振興計画策定の事業委託料についてでございますが、ただいまの御答弁によりますと、県の指導が来ておりますので、という御答弁です。県のほうからそういう観光振興計画を立てなさいという指示があって、それが出発になってこのようになっていくのかどうか、そのへんを明らかにしていただきたいと思います。

それから、次にビーチクリーナーの管理についてでございますが、御答弁によりますと、現在オペレーターは市の職員となって専門化していることですが——いままでは民間委託をしていたということですが、オペレーターの機械の管理に關しましては、今回はこのように補正で車庫をつくるということになっておりますが、いままでのような管理をなさっていたのかお答え願いたいと思います。

次に、西岬地区の通学路のことに關しましてでございますが、これは道路の幅が七メートル、のりを含めて十二メートルという御説明がありました。これは当然将来バスが通るといふことなので広くとってあるわけですが、バスを運行させる上での条件というものがあると思います。その条件につきましてどのようなものが条件になっているのか。通学バスを通すための条件というものがあると思いますので、そこを明らかにしていただきたいと思います。

それから、次の校用器具費の教材について、こうした教材については教育目標とともに年間の当初に定めることはできないでしょうか、お答え願いたいと思います。

次に、わんぱく広場につきまして、ただいまの御答弁でいきますと、いままでの学校内の事故を少なくするために体を鍛える、そのための県の補助がきている施設をつくるという答弁でありました。ところで、答弁にありましたように、いままで学校内の事故が多かったというように答弁から解釈するわけですが、千葉県内から見まして、館山市内の学校内の学童の事故というのはどの程度まで事故の発生率——事故の発生率が多いのでこうしたわんぱく広場というものを設置して、体を鍛えなさいということであると思いますので、事故発生率をお示し願いたいと思います。

以上、御答弁をいただきたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 第一点の質問でございます。

身体障害者用便所新築工事の設計でございますが、手すり、非常用ブザー、特殊な部分もあるわけでございますけれども、市の建設課におきましての設計でございます。

○民生部長（鈴木 力君） 県の児童遊園の設置基準の中で強調される点につきましては、定められました遊具の設備を設置する必要があるということになります。

○経済部長（山田俊康君） 農免道路の市道への編入時期ということでございますが、道路建設が終わって会計検査等もございまして、補助金の適正化に関する政令等の期限であります五年を経過したのち早い時期というふうに現在考えております。

観光振興計画の策定にあたりまして、これは県からの指導があったかということですが、県の指導ありました。県は、本年度館山、鴨川、勝浦三市を対象に基本計画の策定に入りたいというこ

とで指導を受けました。

それから、ビーチクリーナーのいままでの管理の方法というところでございますが、海岸で作業をしております間、たとえば西岬に行きますと、三日間西岬という場合には鳩山荘の付近に置いたりと状況で、また二日、三日と間があります場合には市民センターの広場へ持ってきた、那古のほうに行つて続けて那古のほうをやる場合には市民運動場の一角に置いたというような状況でございました。今回そういう状況を配慮するために車庫をお願いした次第でございます。

○教育長（安田豊作君） 通学用バスを運行するための条件があるんじゃないか、こういうことでございますが、道路幅七メートル予定をしておりまして、バスが交換できるという条件が一つ。それからあと道路の勾配。それから曲がりといいますか、見通しがつく。そういう点を考慮してつくるということで、バスのほうとも話し合っております。

それから、校用器具について、いまさら補正しなくても当初の見通しがつかないのかという問題でございますが、当初予算としては五十九万予定しております。これは理科の補助金でございます。そして、教材費の中で特別に理科関係の備品を——これは県がまとめて別枠で予算がくるわけでございます。それを各市町村ごとに充足率をみて、少ないところから順に割る当てるということでございますので、当初から完全な見通しというわけにはいかないわけです。学校規模、その他によって金額も違いますので、そういうことで途中をお願いしているわけでございます。

それから、わんぱく広場に関連して、事故率はどうかというこ

とでございますが、過去五カ年の事故率がここにあります。五十年が八・八二％、五十一年が九・四九％、五十二年が六・九二％、五十三年が七・七八％、五十四年が八・七八％ということで、これは県下で多いほうから四番目という事故の発生率、そういうことで県から補助金をやるからということでいただいて、補正をお願いした次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） あらあら了解いたしました。まず身体障害者用トイレについては市のほうで設計するという答弁でございました。どうか使いやすい設計をお願いしたいと思います。

それから、観光振興計画の策定事業委託料につきましては、館山、鴨川、勝浦が選ばれたようであります。選ばれた理由について明らかにしていただきたいと思います。

それから、ビーチクリーナーにつきましては、ただいま御説明をいただきましたが、御答弁によりますと、いままではほとんど雨ざらしであったと解釈してよろしいでしょうか。

次に、わんぱく広場に関連してでございますが、学校内の事故の発生率からいきますと、教育長の答弁からいきますと、県下で四番目という多発している傾向が見られるわけでございます。わんぱく広場を設定して充実していただきたいということとともに一方別の面から、こうした事故をなくしていく検討をぜひ加えていただきたいということを要望いたします。以上です。

○経済部長（山田俊康君） 観光振興の基本計画策定ということで県が考えておりますものは、経済情勢の変動に伴いまして観光客の指向そのものも多様化している、特に五十六年度においては千葉県南部の主要観光拠点となるであろう三都市を選んだというこ

とでございます。県の考え方そのものは、これからの観光需要は従来の受け入れ体制だけではなく、地域住民の意識の向上を図りながら、地域ぐるみで取り組んでいくというような考え方も中に入っております。当然経済面だけでなく、文化的な面も含んで地域の振興をねらいとして観光振興を図ることが肝要だ、そういった意味からも初年度は南部の三都市ということで選ばれました。

それから、ピーチクリナーの管理の状況でございますが、長期にわたる場合にはシート等をかぶせておりますが、あす、また早朝、早くという場合には御指摘のように雨ざらしの状況でございました。

○議長（林 豊君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第四十七号補正予算について、三点にわたって御質問申し上げます。

質問は議案書に沿って質問趣旨を説明いたします。

議案書一三ページの民生費の補助金で、館山市社会福祉協議会補助金三十万円が補正予算として組まれておるわけですが、この三十万円の補助金の内容について御説明をお願いいたします。

次に、一九ページのわんぱく広場新設用材料費四十四万六千円についてであります。これは先ほど石井議員からも質問があったところでございますが、当局の答弁によりますと、ミニアスレチックというような性格のものである、おおむねその内容については了解するわけでありませうけれども、このわんぱく広場については学校敷地内ということが条件になっておるのかどうか、その

点一つ。

それから、わんぱく広場の今後の——豊房小学校に設置するということでもございましたけれども、今後の配置計画はどのように考えられておるのか。

第三点は、お話を伺っていると、あえてわんぱく広場ということで看板を掲げるというものでもないのではないかと、そういうような気が強くするわけあります。と申しますのは、学校の各器具の購入——鉄棒等現在でもそうした器具の購入等やるわけですから、そうしたものの充実ということで、十分考えられるわけで、あえてこうしたものを行うというのはどうも納得がいかないわけであります。県がそうした事業として行うということでありますから、そうした点について総合的にみた場合に、補助金の数を、次々にこういう形でふやすということは、行政のむだに重なることでありますので、そういう点についてどのような考えをお持ちであるか。むしろ現在の制度の中で学校の教材等の充実というようなことで図ったほうが効率的なのではないかという気がします。このへんについてのお考えがどうか。

次に、一七ページの西岬地区の通学用道路の新設工事測量調査委託料二百二十万円についてであります。昨日の福原議員の質問の中で詳細に取り上げられた西岬の統合問題でございますが、さらに二点にわたって御質問申し上げたいと思います。

住民の意向について、五十七年度の統合に住民の同意がいたされるということで確信しているというような教育長の答弁があったわけですが、この確信についてお聞きしたいと思うわけあります。昨年七七の反対のアンケートがあったということで本年

度の統合が見送りになった経過があります。住民の同意を得たとは具体的にどういうことから判断をされるのか。もう一度部落でアンケートをとって持ち寄るといふことなのかどうか。そのへんの具体的な手続きをお聞かせ願いたい。

そして、通学用道路の新設というのは統合の条件であって、住民の反対があればやらないということなのかどうか。そのへんについても御答弁願いたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、館山市社会福祉協議会補助金についてでございますが、市内宮城一九七番地三の北条政吉さんという方から市に寄附の申し出がございまして、特に困っている方ということでございます。一般寄附金としてこれを市が受け入れまして、同額を寄附者の意思に沿うべく社会福祉協議会に支出しようとするものでございます。

第二点、第三点の御質問につきましては、教育長から御答弁を申し上げます。

○教育長(安田豊作君) わんぱく広場の設置についてであります。これは一、二、三とありますけれども、三のほうからお答えしたほうがわかりやすいと思いますので……。

わんぱく広場というようなものを考えてつくらなくてもいいじゃないか、学校の遊具を計画的に進めればその中でやれるんじゃないかということです。そのとおりでございます。実は、この補助金というのは学校安全会という制度がありまして、学校安全会というのは学校内で、要するに学校管理下だけがをし

た子供についての治療費を支給している制度でございます。その安全会が、けがをされると補助金といいますか、治療費を余計払わなければいけない、それを少なくするための施策としてこういう補助金制度をつくったわけでございます。

さっき御説明申し上げましたように、県下で四番目という事故率から館山市でこれをやってくれという、こういう補助金でございます。

しかし、その内容は、ミニアスレチックというような、そういう内容でございまして、学校内での遊具その他はいまも設置はそういう方向でなされております。そういうことで、その計画の中で、豊房小学校に配置することが現段階では最も適しているという判断のもとに豊房小学校に配置しました。したがって、配置計画は、学校の遊具、運動具、その他の館山市の私どもの計画の一環として考えているということ、と同時に、学校内の配置ということ、補助金の性格からそういうことになっている、こういうことでございます。

それから、西岬地区の通学道路に関連して、西岬の統合が確信が持てるという根拠であります。が、昨年のいまごろ、あるいは十二月でしたか、アンケートをとったのは、十二月近かったと思いますが、その時点における状態と現在の状態は、昨日も説明いたしました。が、地区の統合対策委員の皆さんが統合を進めようじゃないかという方向でいろいろ動いていただいている、これは全然昨年の状態とは違います。

それから、それは十人ぐらいの人数でございすけれども、全部の区長を含めたコミュニティ会議で二回にわたって討議をなさ

れたようでございますが、その場には私どもは出ませんけれども、皆さんが了承しているという御報告をいただいております。

そういうことから、地区住民の全部にいまいきわたっているという段階ではないことは私はわかっておりますけれども、何人かの区長さんは区民を集めて話したところ、その区では皆了承してくれたという、こういう報告を受けております。

それから、もう一つ。この地区の指導者級の方が、昨年は反対したけれども、いまになって私ははっきり考え方を変えたということ、皆さんの集まっている段階で宣言している例が——それは一人や二人ではない数をはっきり確認しております。

そういうことから、統合ということは、私の感じとしては確信を持てるということを申し上げたわけでございます。

それから、道路は統合の条件か、統合しなければつくらないか、そういうふうな聞かれ方をすればそのとおりと答えざるを得ないと思います。しかし、統合が決まらなければつくらないということとじゃなく、相呼応して進めていく。むしろ今後の、測量調査費をお願いしているのは、はっきり決まったわけではないけれども、お願いしているわけでございまして、私はそういう確信を持つからお願ひしているわけで、しかし統合しなければ要らない道路でございまして……。

以上でございます。

○一番（神田守隆君） 社会福祉協議会の補助金三十万円についてはわかりました。

それで、社会福祉協議会の問題で、こういう問題を私伺ってどうかという問題があるんですけども、関連いたしますけれども

も……。

社会福祉協議会というのは大変活発な活動をされて、第二の市職員とも言うべき活躍ぶりではないかというような感想を持つわけですが、福祉協議会職員の給与や労働条件の問題、ボーナス、こうしたものについては、結局は市からの委託あるいは補助金が財源になるわけですから、それによって決まるわけですから、その点で社会福祉協議会で雇用している職員の中には、ボーナスの支給対象にならぬということを伺ったんですが、もしそういうような事実があるのかお聞かせ願ひたいと思います。

それから、わんぱく広場の問題で、説明で大分わかりましたけれども、当面、先ほどの教育長の答弁の中でも、あえてわんぱく広場ということで学校の遊具等の助成なり、そうした形でやれないこともないわけで、とすれば、教育長のお考えとしても、こうした問題については、むしろ学校遊具の助成の強化ということに一本化を進めるべきじゃないか。そういうことのほうが行政のむだを省くことにつながるのではないかと思うわけで、そういうことで、県にこうしたことについての上申なりをされたことがあるか。ないと思えば、そうしたような意向はあるかお聞かせを願ひたいと思います。

それから、西岬地区の通学路の問題で一点——いまの御説明で了解するところもあるわけですが、昨年七七%の反対という、具体的にアンケートをとったという手続きの問題、そういう中で出ているわけですから、住民の賛成を得たということは手続的に、どうも賛成に傾いてきているようにだといっても、あくまでも主観的な判断だと言われれば主観的な判断だと思ひますが、具

体的にはどういふような手続きを考えておられるのか。そういう点でもう少し説明をお願いしたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 社会福祉協議会の職員に対する給与の関係でございますけれども、市といたしましては社会福祉協議会の専任の職員に対する補助金、なお地域ぐるみ福祉に対する職員の賃金、こういったような人件費に対する補助につきましては、いわゆる期末、勤務手当的なボーナスに対する給与も含めまして補助をしている状況でございます。

○教育長（安田豊作君） 補助がほうほうから出て複雑じゃないか、この点については零細補助金を整理して計画的に補助金を出してくれという、そういう申し入れをしておりますけれども、わんぱく広場そのものについてはしておりません。

ただ、現在においては、遊具のような固定施設についての補助金はないわけで、今回二分の一の補助があるということでもらった。こういうことでございます。

それから、西岬の統合について確かめのために、昨年はアンケートをとったのにとらないで決めることはできるのかということでございますが、昨年も確かにアンケートをとったということが言われています。ある区ではとったようです。しかし全体として七七〇という数字それ自体がまあおかしいじゃないかという気はしています。ということは、全然とらない区もあるわけですから。それを集計して七七〇という言い方をしているわけで、しかしこれはやはり区長さん方が全体の雰囲気を感じて、そのくらいの数字になるんではないかということで協議して、対策委員の皆さんが決めてきたようでございます。したがって去年とったからこと

しもとらなければいけないんだという決め方はないと私は思っております。あくまでもいま地区の皆さんが言っていて——私どもも思っているのは、これを決めるのはお互いの信頼関係なんだということですから、ことさらそれを荒立てるような手続きはしないで、お互いに信頼関係を確かめあうという段階をどういふふうにとるか、これからの問題だと思っておりますけれども、そういうふうにして決めるんだと思っております。

○一番（神田守隆君） 福祉協議会の職員の期末、勤勉手当については、そうしたものも含めて支給しているということですから、了解をいたしました。

それから、学校安全会の問題でも、話としてぜひとも——いま行政改革の問題が叫ばれているわけですけれども、やはり行政の中身、特に市、県、あるいは国、こうした相互間の行政のむだというものが多岐にわたります。補助金をたくさん細かくつくって、それぞれ県のほうも出すのに職員を配置するでしようし、受けるほうもそのための職員を配置するということで、お互いのむだというものが多くなるわけです。それらの件数そのものは少なければ少ないほどもっと行政はスムーズにいくと思います。

市町村の立場からすれば、行政の選択の範囲といえますか、そうした自主性の範囲というものを拡大するわけですから、大変にいいことだと思っております。そうしたことから、この問題について県に対してぜひそうした市の立場だけで考えるのではなくして、総合的に考えた場合に、ぜひ検討をして、その検討によつては県のほうに申し入れをするようお願いしたいと思うわけです。それから、西岬の統合問題についてですが、結局これは事を荒

立てるような手続きをしないほうがいいというような御判断のようですけれども、やはり住民の判断、これが一番基本的な問題でありますから、そうしたことからやはり慎重な態度で十分——住民の意向が、たとえ少数意見といえども、反対という意見があればそれを十分尊重するような対応をぜひお願いいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっており、議案第四十七号昭和五十六年度一般会計補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、認定第一号乃至認定第七号昭和五十五年度一般会計及び各特別会計決算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、すでに細部にわたり通告してございますその論旨に従いまして御質問申し上げます。

昭和五十五年度の一般会計決算についてでございますが、私も今回の決算につきましては、これを質問するにあたりまして、昭和五十五年度当初の市長の施政方針にまで立ちもどり、市長の施政方針がどのように具体化されて、最終的に一つの年度の結びとしてどのような経過をたどり決算に至ったかという一連の流れを考えてみたのでございます。

市長も、五十五年度の決算を上程するにあたりまして次のように述べました。『「住みよい環境づくり」、「福祉社会づくり」、「教育、文化の環境づくり」、「産業の基盤づくり」の四項目を重要施策として財政の健全性を確保しながら生活基盤の整備に努めてまいりました。この結果、昭和五十五年度の一般会計決算におきましては、実質収支で四億五千三百万余円の黒字決算を遂げることができました。』、と述べられております。

私も、施政方針を振り返りながら御質問申し上げます。

初めに、三七ページ七目防災対策費一三節についてでございます。耐震性井戸貯水装置設置工事設計監理委託料です。市長の施政方針には、「万一の災害時に備え、市民に対する情報収集及び伝達、飲料水確保のための各施設等を計画的に整備すべく、引き続き耐震性井戸貯水装置、災害用浄水機、防災行政無線等を設置し、市民の生命、財産を守るための施策を推進してまいる所存であります。」というように述べられております。決算におきましては不用額を生じております。その経過、理由について説明

を求めます。

次に、六五ページ水道費の繰出金についてであります。繰出金の内訳を御説明願いたいと思います。

出資金としては幾らか、経営経費としては幾らか、工事費としては幾らか含まれているか。ここで施政方針と照らし合わせてみますと、「新年度事業といたしましては、第二次拡張事業として未設置地域である出野尾、岡田、東長田、西長田地区への給水区域の拡充を図る一方、各浄水場施設の整備等改良工事を行い、給水機能の充実を図ってまいります。」とありますが、これらの当初の工事目標が決算時期を迎えるにあたりまして、どのように推進されて完了したかを御説明願いたいと思います。

次に、六七ページ八節の報償金についてであります。農地移動適正化あっせん員報償金について。これにつきましては、農地地域における農地の所有者の移動の際の適正化ということが目的で推進されていると思います。こうした点で、一、あっせんは計画的に行われているか。二、農地の適正化についての計画図はどのようになっているか。御説明を求めます。

続きまして、農地紛争仲介あっせん員報償金についてであります。あっせん員の役割と効果についてお伺いします。

本年度、特に問題となった紛争にはどのようなものがありましたか。また、昨年と比較してどのような違いが出てきておりますか。社会情勢の変化、環境の変化に従いまして紛争の傾向が変わってくると思いますので、それらに対する対処の仕方という観点から御説明を求めます。

次の、標準小作料設定協議員報償金でございますが、この報償

金は本年度初めて計上されたものであります。これが内容につきまして少し詳しく御説明を願いたいと思います。

一、小作料設定と基準になるものは何か。二、協議された件数は何件か。

次に、その下欄の農家台帳補完事務調査報償金でございますが、これにつきましては、本年度は、一、どのような内容の調査をされたか。二、調査の方法はどのようにしたか。調査結果についてどのような点で改善されるかについて御質問をいたします。

次に、六九ページ一九節の中のだもの作り推進事業補助金、それといちご生産振興対策事業補助金についてであります。これにつきましては、市長は「地域の特性を生かした果樹、園芸等の商品生産農業を育成するため各種施策を推進いたします。新規事業としていちご生産モデル団地を設置し、品質向上と安定生産を図るとともに、観光と結びついた農業を推進してまいりたいと考えております。」というように方針を打ち出されておりますが、その方針のもとに組まれた補助金であります。これらの趣旨がどのように具体化していったのかという点から御質問いたします。

一、いちご生産モデル団地設置について補助金はどのように使われたか。二、くだもの作り推進事業はどのように進められたか。

続きまして、七七ページ観光費中一三節の委託料の問題であります。郷土美化植栽事業委託料、そしてその次の花摘園、椰子並木というように各委託された事業が計上されておりますが、これらにつきましては御質問申し上げます。

一、事業は計画どおり目標を完了しているか。二、事業はマンネリ化していないか。三、事業の今後改善していく点についてど

う考えているか。これらの植栽事業管理委託は毎年同じように繰り返されているのですが、行政の効果という点からもっと分析を加えて、研究を加える必要があるように思いますので、以上御質問申し上げます。

また、同じく一三節の中の公衆便所の清掃委託料についてであります。本年度ほどの程度まで仕事の内容を委託したか説明をお願いします。

また、通告してありましたビーチクリーナーにつきましては、先ほどの質疑で了承しましたので、質問としては割愛をいたします。

次に、七九ページから八〇ページに至る土木費が計上されております。道路橋梁総務費、道路維持費、道路新設改良費、橋梁費等補正の増減があります。これらはそのつど補正の時点で一応の説明がなされており、いずれにしても道路整備につきましましてはかねてから市長もその推進方を強調しているところのものでございます。市民の文化生活の程度は、市民が日常生活している道路の整備にその水準があらわれているものと思いますので、予定された道路の整備計画と、実際に推進され、改良された工事の関係上から、決算に示された増減の理由、根拠について御説明を加えていただきたいと思ひます。

それから、八三ページの四目公園費であります。市長は「現在本市には都市公園として城山公園ほか五公園があります。それぞれの規模内容に応じた整備を図っておりますが、市民等のレクリエーション需要に対処するとともに生活環境保全のため自然保護を配慮しながら計画的にその整備を推進することといたしまし

た。」と述べておりますが、公園費の減額について、補正の減額で決算に至っております。全体の工事の進み具合を説明していただきたいと思ひます。

九三ページ学校建設費の中の一三節委託料、そして一五節の工事請負費についてであります。ともに不用額を出しておりますが、これについて説明を求めます。

九九ページ社会教育費の中の一三節委託料でございますが、ここに文化祭委託料等四項目にわたるそれぞれの委託料が計上されておりますが、これは不用額を出しておりません。それぞれの委託料の行政効果に関してお尋ねをいたします。

一、文化祭委託料についてどのような内容の計画であったか。

二、発掘調査報告書の作成——どのような調査をなされたか。三、地質調査について、どのような地質調査の結果が出ているか。説明をいただきたいと思ひます。

最後に、一〇三ページ保健体育費の中の一八節報償費についてであります。それぞれの行事が予定どおりの成果をもって完了しているかどうか御説明をいただきたいと思ひます。

以上、御質問いたします。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 石井武敏議員の御質問にお答えいたします。多少御質問の順序と変わりますけれども、御了承いただきたいと存じます。

土木費の増減について、計画工事との関係はどうかとの御質問でございます。

土木費中、土木総務費六百六十一万四千円の補正増でございます。

すが、これは十二月補正で人事院勧告に基づく人件費の補正増でございます。

道路維持費の五百万円の前増でございますが、これは十二月補正で道路維持補修工事費を増額したものでございます。

道路新設改良費六千九百二十五万円の増でございますが、これは十二月補正で道路改良舗装工事費として三千五百四十万円、測量委託料百三十万円、さらに三月補正で道路用地購入費——これは北条小学校の北側道路でございますが、二千五百四十四万円、県道工事負担金六百八十五万円の補正増でございます。

橋梁費の三十五万円の補正減は、大神宮中里地内の官川橋の予算執行残を補正減いたしましたものでございます。

また、計画工事との関係でございますが、おおむね計画どおり執行いたしましたが一等地元等の了解が得られず変更したのもございますけれども、土木費の予算執行率は九九・七％でございます。

次に、土木費のうちの公園整備の減でございますが、公園費減額の主なものは公有財産購入費と負担金補助及び交付金でございますけれども、公有財産購入費につきましては、城山公園の用地取得にあたり、できるだけ市費の持ち出しを抑えるため、県費補助事業の補助基本額五千万円、国庫補助事業の補助基本額千五百万円、計六千五百万円を大幅に上回ることをないよう対象者、面積を考慮して買収事務を進めた結果、三千四百八十三・四八平方メートルを六千七百二十三万一千六百四十四円で取得することができましたので、予算七千三百万円に対して五百七十六万八千八百三十六円の残を生じ減額したものでございます。

なお、用地取得について、現時点では順調に進んでおります。負担金補助及び交付金につきましては、館山運動公園整備事業に対する負担金でございますが、当初千葉県が予定した三億八千万円の事業費に対して負担金八千二百万円を計上いたしました昭和三十五年度において実施された事業は二億八千万円でございます、事業量減に伴い負担金が千八百万円の減額となったものでございます。

進捗状況は、昭和三十六年で荒造成を完了し、昭和三十七年度末には一部開設を予定しております。

不用額につきましては、その主なものは設計委託の請負残等でございます。

次に、水道費の施設費の減についての御質問でございますが、水道施設費の減額につきましては、三芳水道企業団の水道料金を五十五年五月から改定をしたことに伴いまして九月定例議会におきまして三芳水道企業団負担金を千七百六十七万円減額し、また市管水道への繰出金については三月定例議会において県道館山長尾線西長田地区の配水管工事に伴い県が道路復旧をする前に配水管からの取り出し工事を市費で実施する必要があるため四百五十万四千円を追加したもので、差引合計千二百五十六万三千円が補正予算額となったわけでございます。

次に、耐震性井戸付貯水装置に関する御質問でございますが、防災対策費一三節委託料につきましては、耐震性井戸付貯水装置設置工事設計監理委託、地震対策基礎調査委託及び市有建築物耐震診断委託が予算計上されまして、これを執行いたしました、耐震性井戸付貯水装置設置工事設計監理委託において三十万円、

市有建築物耐震診断委託が八万円、それぞれ委託料が予算を下回ったため三十八万円の不用額となったものでございます。

次の第五節工事請負費につきましては、耐震性井戸貯水装置を館山小学校校庭に設置いたしました。が、工事入札により工事が百九十万円下回り、不用額となったものでございます。

なお、この工事請負費の内訳は、耐震性貯水槽、地下水くみ上げ装置、浄水装置、非常電源及び管理棟——九平米でございますが、この工事が二十四百五十万円、井戸掘等工事が九十万円、計二千五百四十万円となっております。

保健体育費の報償費及び負担金補助及び交付金の不用額についてでございますが、保健体育総務費のうち報償費の不用額五万四千円でございますけれども、これはスポーツ教室講師謝金の残二万六千円及び全国大会出場選手賞賜金の残二万八千円でございます。

また、負担金補助及び交付金の不用額五万六千七百円は、当初五十メートルプールで予定されておりました第十一回千葉県高校新人水泳大会が会場変更され、千葉市で開催されましたため、助成金の不用額二万円と、第一回若潮マラソン大会の選手傷害保険料が当初見込み参加人員より若干下回ったための残三万五千二百円などでございます。

千葉県高校新人水泳大会を除き、八節、一九節とも不用額を生じた事業につきましては、当初計画した事業内容を実施し、所期の目的を達しております。

次に、学校建築費の委託料、工事請負費の不用額でございますが、一三節委託料六千円の不用額については、船形小学校校舎防

音改築工事監理委託料繰越明許費分の残額でございます。

一五節工事請負費二百五十一万五千円の不用額については、船形小学校防音改築工事を本年二月十二日から着手しましたが、くいの数量に変更がありましたので、三月二十七日に請負契約変更の議決をお願いしましたので、期目的に減額補正することができませんので、今回計上いたしましたわけでございます。

次に、社会体育費一三節委託料についてでございますが、第一点、文化祭の実施につきましては、委託料は総計百万円でございますが、内訳は二十二団体参加の芸能文化展について、主管の文化団体連絡協議会に六十万円及び学芸展主管の市教育研究会に二十万円、生活展の市連合婦人会に七万円、主婦クラブのつどいで主婦クラブ連絡協議会に四万円、青年団体活動展のために青年団体連絡協議会に一万円を配分しております。さらに、一般市民の自由参加による市民コーナー、公民館コーナー及び全体の運営のための本部費として八万円を計上いたしました。

それぞれ有効に使用し、十月二十六日より十一月九日までの期間中、出品、出演者数約五千人、見学者数約二万五千人を数え、本市教育、芸能文化の成果を市民に公開し、文化についての理解と関心を深め、その充実、振興を図るという所期の目的を達成することができたのではないかと考えております。

次に、第二点。館山城発掘調査報告書委託料九十万円についてでございますが、これは昭和五十二年より三カ年にわたって、国、県の補助を得て調査した結果についてのまとめとして報告書の作成を委託したものでございます。

調査内容は、第一点、館山城跡及び周辺の地形測量、第二点、

義康御殿跡及び鹿島堀の発掘による遺構の確認、第三点、里見氏関係の文献及び近世史料発掘のための所在調査、この三点についての学術調査でございましたが、これにより里見氏の歴史と関連して館山城の全貌が一層解明され、貴重な文化財として保護するための資料が得られたものと考えております。

次に、博物館分館建設用地の地質調査についてでございますが、調査場所は分館建設予定地で、調査は三階建て建物基礎工法の決定にあたり二カ所を実施いたしました。

調査の結果、いずれも地盤として最適だという結論が得られております。

次に、農業委員会に関する御質問につきましては、農業委員会から御答弁を申し上げます。

次に、うまいくだもの作り推進事業補助金についてでございますが、館山市におけるびわの栽培は傾斜地を利用し、段々に造成した土地でございますので、生産物や肥料等の運搬作業に多くの労力を要しますほか、スリップ等による事故、危険が伴いますので、これらの障害を除去し、労力の軽減と能率の向上、合わせて産地の維持、拡大を図るため、昭和五十四年度より継続事業として事業を行ってまいりました。

その事業主体は、館山市沼びわ組合でございます。この組合は組合員三十七名であります。総事業費六百万二千五百円でございます。この内訳は、補助金が二百六十二万九千円、組合負担が三百三十七万三千五百円でございます。補助金のうち、県が百四十七万三千円、市が百十五万六千円でございます。事業内容といしましてはモノレールを五台、レールを千六十メートルでござ

います。

その結果、効果といましては、労力が軽減されましたこと、能率が向上しましたこと、びわの痛みが少なくなった、そのような効果がございました。

次に、いちご生産振興対策事業補助金についてでございますが、この事業主体は館山市いちご生産振興事業組合でございます。組合員は十三人でございます。さらに総事業費は六千二百一十千円でございます。その内訳は、補助金が二千八百六十千円、さらにその内訳は、県が一千八百六十千円、市が一千万円でございます。組合負担は三千二百一十千円でございまして、そのうち近代化資金を二千五百四十万円利用いたしております。

事業内容は、大型ビニールハウス十三棟、一万四千九百八十四・八平方メートルで、事業費は五千九百万円でございます。そのほか防除消毒機を百二万一千円購入いたしております。

これは、観光いちご狩りを実施いたしたわけでございます。組合員十三人と農協を中心に、農協館野支店にいちご狩りセンターを設置いたしました。二月七日にオープン、五月十五日までの間開園いたしました。入園者は延べ二万七千六百二十九人ございまして、さらにみやげ用として七千五百箱の販売がございました。総収入は三千百八十五万円でございます。

その効果といましては、労力が軽減されましたこと、栽培面積の拡大が図られましたこと、さらに収入も増大をいたしましたことでございます。

次に、観光費の委託料に関する御質問でございますが、郷土美化植栽事業等につきましては、各事業それぞれ計画どおり実施でき

たわけでございます。事業のマンネリ化ということにつきまして
は常に問題意識を持ち対処いたしております。

今後の改善点につきましては、美化事業にありましては、従来の
事業に加え、五十五年度新規事業でカンナの球根をフラワール
イン等に地域住民の協力を得て植えまして、多年生の路傍植栽を
試みまして、これが定着を図ろうと考えております。花摘園につ
きましては新企画によったものでございます。他の委託事業につ
きましては検討を行い、常に改善を図り、観光施策を進めてまい
る考えてございます。

公衆便所の清掃委託につきましては、便所施設の清掃を委託業
務としておりまして、それに加えて殺虫剤の散布も委託しており
ます。清掃回数は、常設便所は月三回、夏季における仮設便所は
月四回行いものとしてしまして、委託契約どおり実施され、効果
を上げることができました。五十六年度は常設便所は前年度と同
回数、仮設便所は月九回にふやし業務委託を行っております。

以上、答弁を終わります。

○農業委員会会長（斎藤 明君） 御承知のとおり農業委員会の役
割は、農民の福利を含めた業務が主たるものでございます。した
がいまして、御質問の各項目われわれの業務でございます。しか
し、それぞれの質問の核心が決算の内容についてのようござい
ますので、事務局長よりお答えいたしたいと思います。

○農業委員会事務局長（庄司 徹君） 御質問のございました農地
適正化あっせん事業について、農地の効率利用から計画的に、ま
た計画図はあるかという御質問でございますが、この制度が農業
経営の規模拡大、あるいは集約化、あるいは流動化、そういうよ

うなことを目的に行うものでございますので、農民の申し立
てによって農業委員会を公的の場として行うということになって
おりますので、したがいまして計画的に、あるいは計画図は設け
ておりません。

それから、農地の紛争仲介あっせんの関係でございますが、そ
の役割と効果ということでございますが、これは農地法第六条の
規定に基づきまして、農業委員会は争議防止、そういうようなこ
とについてあっせんができるわけでございます。そういうような
観点から、また農地法の四十三条の二で和解の仲介というよう
なことがありますので、公的の場としまして、当事者の双方または
一方から申し立てがあった場合にこれに対処するというところで
ございます。

問題になった紛争はという御質問でございますが、五十五年度
につきましては六件ございました。その内容はいろいろふりにな
っているかと申しますと、排水関係三件、日照権関係一件、あと
農道、境界各一件でございます。

それから、昨年との比較はどうなっているか、特に社会変化、
生活変化でどうなっているかという御質問でございますが、この
件に関しましては五十四年度におきましては五件ございまして、
その内容は主に境界の争いでございます。したがいまして比較で
ございますけれども、最近では転用に伴って許可を受けたものの
隣接農地の確保というような面から、最近では排水関係が多くな
ってきておるといことがいわれます。

それから、次の標準小作料設定につきまして、その設定と基準
になるものという御質問でございますが、この件につきまして

は、標準小作料は三年に一通見直しをするということになっております。それで、当該年度が五十二年に引き続きまして見直しをする時期であった。その基準になるものは何かといいますと、豊作あるいは不作、そういうような年でない、通年作の十アール当たりを基準といまして残余方式によって算出する、残余方式といえますと、粗収益から生産に要する一切の費用、それからさらに経営者の報酬、そういうようなものを控除して、上田、あるいは中田、下田、あるいは畑、そういうようなものについて求めるものであります。

それから、協議された件数はという御質問でございますので、この件につきましてはそのような趣旨から五十五年度におきましては三回行われました。そのうち一回は鋸南ブロック等の近隣町村との均衡というようなこともございますので、二月二十六日でございますか、三芳におきまして鋸南ブロック会議を開きました。

それから、台帳補完事務の関係でございますが、どのような内容の調査をしたかというようなことでございますが、これは五十年から五十二年度にかけてまして新農家基本台帳事業というのが館山市がモデルになりまして事業を行いました。その際、国の指導は固定カードを用いるべきだと、ただし館山市は電算化を用いておりますので、電算化によって台帳整備を行ったわけでございます。それを、さらに五十五年の八月一日を調査時点といまして、そしてさらに農家台帳の整備を行う。具体的にいいますと、これにつきましては世帯の状況とか営農状況とか、それから土地の総括、各筆の状況、それから農家経営状況、こういうものを一

冊の簿冊に入れるわけですが、この際も館山市におきましては電算化をすでに使用しておりますので、電算化による管理の改善を行いました。

その調査の結果でございますけれども、昨年九月から十月にかけてまして農地関連三法が改正になります。そのようなことで、また農地の非常に緊急かつ重大な、重要な政策課題があるわけでございますが、それらに対応できるような基礎資料にしてくれというようなことが趣旨でございます。

○議長（林 豊君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十八分 休憩
午後 一時 二分 再開

○議長（林 豊君） 午後の出席議員数二十二名、休憩前に引き続き会議を開きます。

御質問を願います。

○二〇番（石井武敏君） 午前中、市長の御答弁をいただいたわけでございます。御答弁の内容も非常に具体的でありますし、おおよそわね了解をするものでありますが、午前中の質疑に関連をしまして何点か再質問したいと思っております。

初めに、耐震性井戸でございますが、この件につきましては当初予定されましたものが、金額的に言いますと二千七百三十万円、実際に入札をされてできた工事が二千五百四十万円、耐震性井戸一基ということでございますが、この工事につきましては最初予定していたものと実際の工事入札との差が百九十万円あるわけでございますが、あまり差が大きくても工事の内容が危ぶまれます

し、また市としてもいままでも——初めての耐震性井戸の建設ではありませんが、何回かの入札経験をくぐって今日に至っていると思います。

そこで、お尋ねしたいわけでございますが、この入札と予定されました工事の額の差はおのずから限度が開きにあると思います。が、どの程度の開きに市としては考えているんでしょうか。

それから、入札に参加された社は何社であるかお聞きいたしたいと思います。

設計監理委託におきましても不用額が出ておりますが、これは工事の入札額との関係が生じているんでしょうか。その点を明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、市の植栽事業に關しまして大変細かく御答弁をいたしたい次第でございますが、御答弁の内容からしまして、昨年前期から比べまして事業内容が向上しているように受け止められました。というのは、いままで一年生の草花が多かったところに、今回初めてカンナを植えております。これは球根を持つ長持ちがするよい花を、経費を安くという点からしまして向上してきていると思ひますが、現在、市で植栽しております花の球根類はカンナだけでしょうか。また、多年生と一年生の草花を比べまして、全体の何％程度が多年生のものなのかどうか、この際明らかにしていただきたいと思ひます。

また、植栽を完了しまして、おそらくそれを点検しておると思ひますが、この点検の時期と方法について、いさ少し詳しく御説明がほしいと思ひます。

それから、土木費の橋梁費に關係しまして、関連として御質問

いたします。

市内の萱野団地先に新橋という名前の橋があるのを御存じだと思いますが、この橋は非常に危険度が高くて、現在は交通を封鎖しているかにうかがっておりますが、しかし封鎖しておるにもかかわらず利用する人を多く見かけます。橋梁費に關係しまして、新橋の整備計画がおりかどうかお示しを願ひたいと思ひます。

それから、なお公園費に關連しまして御質問いたします。

館山市内の船形にあります丸山公園という公園であります。現在都市計画公園からはずされて、長い間放置されているのが現状であると思ひます。ところで、都市計画の公園として指定されるための条件を——たとえば、面積、環境、その他に對しましてどのような条件があるのか、そして丸山公園がそれに適合しない理由は何か、ひとつ明らかにしていただきたいと思ひわけでございます。

それから、農地費に關しましては、細かく御答弁がありまして、あらあら了承するところでございますが、決算額の多い少ないということではなくて、行っている事業の輕重という内容の点から御説明いただきたいと思ひます。

農地の移動あつせん業務について、御説明によりますと、土地改良を行った地域に多く見られるということ、特にばらばらに散在している農地を一個所にまとめていくという合理化を図っていくとするものであるということがわかりますが、このあつせんにおきまして過去にあつせん不能になったものがありますかどうかお伺ひいたします。

また、これはあくまでも申し立て制度によるものであるという

ように答弁から受け取られるのですけれども、全体的な立場の上から考えまして、こうしたほうが合理的であると考えられる内容のものがあると思いますが、こうした点では實際上、事実上どのように対処されておりますか。

また、小作料の設定についてでございますが、御答弁によりますと鋸南ブロックを参考になさったということですが、参考となさるのは鋸南ブロックだけなのでしょう。あるいは鋸南ブロックとは定期的にこういった種類のものを幾つか話し合っている、そういった組織体系ができていますものではないかお尋ねいたします。

○民生部長（鈴木 力君） 耐震性井戸貯水装置の工事予定価格でございますけれども、二千五百六十七万円でございます。それに対して工事請負金額が二千四百五十万円。それから指名競争入札に参加したものは六社でございます。

○経済部長（山田俊康君） 土木の橋梁費に関係します新橋の整備計画でございますけれども、通称滝川といっております川にかかっている——平久里川との合流点の上のほうにあります新橋——現在、滝川につきましては、県におきまして平久里川の合流点、鶴戸川橋から上流に向かって年次計画で改修計画を進めております。すでに三年ほど用地買収を行ってまいりました。来年から改修工事に入る予定と聞いております。

御指摘の腰越と萱野をつなぎます新橋付近につきましては、現在の川幅のおよそ倍くらいの広さにするんだという拡張計画も聞いております。そういった関係から新橋のかけかえも河川改修を待つて施行したいというふうに考えております。

公園費に関係しまして、丸山公園——通称丸山公園といわれているところでございますけれども、現在は市の普通財産となっております。この面積は約〇・一九ヘクタール、児童公園の標準としますのが〇・二五ヘクタールでございます。面積的には近いのでありますけれども、地形的に子供たちが利用するには住宅地よりも遠いということ。また形状が非常に複雑で山になっております。がけ等もありまして、平たん地が少なく、児童公園としては位置的にも適当ではないと思われまふ。

都市公園の中では、基幹公園として児童公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園等ございますけれども、最も近いものが児童公園ということになるかと思ひます。特殊な公園としては風致公園とか動植物公園、歴史公園、墓地公園等もありますけれども、都市公園の種類のうちで最も近いものは、児童公園にするか——児童公園というのは、児童が使うのに適当な位置かどうかということでも問題になります。そうすると残るのは風致公園としてはどうか、これ等についても自然条件によって、皆さんに利用できるような方向というものを考えなければいけないのではないかとこのように考えております。

それから、カンナの植栽の關係でございすけれども、現在市が直接植えておりますのは、多年生といひますか、花の咲くものではカンナのみでございます。ですから、全体の何れかということについては、今回始めたばかりということですので……。

これらの点検時期、方法につきましては、地元の方々にお願ひして常時監視ということをお願いしてございます。やはり定例的に回るといふようなことでは効果が上がりませんので、常時お願

いしている。それに加えて、市の職員も時折、お願いしていた状況の把握のために随時見回りを行っているというのが実情でございます。

○農業委員会事務局長（庄司 徹君）　まず第一点でございますが、農地移動適正化あっせん事業について、過去にあっせん不能になったものがあるかという御照会でございます。

五十五年におきましては一件、千百七十九平米、これは不成立に終わっております。

第二点目の、土地改良区の事業等通じまして全体的に、あるいは合理的にやれなかったかという御質問でございます。

この点につきましては、この制度が農用地の中の区域に限るということ、それから個人の申し出によって公的機関を使って行うということ、ですから対象外になりますのは、事前に不動産業者が介入しているとか、売買契約等が成立しているとか、こういうようなものは適用にならないわけでございますので、これは個人の申し立てによってやっているというのが実情でございます。

それから、第三点目でございますが、標準小作料設定にあたって鋸南ブロックを参考としたというわけでありませうけれども、この件につきましては、安房ブロックにおきましては長狭ブロックと鋸南ブロックがございます。それで私どもの館山市はどっちのブロックにも入っておりません。ただ、三年に一度の標準小作料を見直す、近隣の均衡というような考え方から、鋸南ブロックのほうに入って協議をしてくれないかということで、それで入ったわけでありませう。

○二〇番（石井武敏君）　農地費に関しましては了承いたしました。

橋のかけかえてございますが、ただいまの御答弁でいきますと川の改修工事待って取りかかりたいということでありませう。おむねいつごろ取りかかれるか予想がありましたらお答え願いたいと思います。この件に関しまして非常に住民の要望、市民の要望が寄せられているところのものでありますので、なるべく早い機会にかけかえを行っていただきたいと思うものであります。

それから、丸山公園につきましては、児童公園か風致公園かいずれかになるであろう、どちらかといえば風致公園のほうが近いだろうということですが、公園整備計画の中に丸山公園を加えていただきたい。かつて、先輩の話によりますと、あの公園もかなり整備しようという話もあったようにございますので、そうした経過を踏まえて今後の整備方を願いますものであります。

○経済部長（山田俊康君）　新橋のかけかえがいつごろになるかということでございますけれども、県には早い時期に河川の改良をお願いしているわけでございますけれども、でき得れば、この夏に聞いた話では、とにかくもう二、三年待つてくださいます、ことしから工事を始めておりますので待つてくださいます、時期は明快には申し上げられませんが早い時期にやりたいと思いますので、もししばらくお待ちを、というのが県の答弁でございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（林 豊君）　以上で二〇番議員君の質疑を終わります。次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君）　会計決算について質問いたします。すでに通告してございますので、その通告の内容について御説

明申し上げます。

私の説明は、歳入歳出決算事項別明細書により行います。

まず、五ページ、市税の不納欠損額が二十四百九十万五千三百五十八円となっています。前年度が三百七十九万五千三十三円です。前年と比べて六・六倍にも激増しています。この不納欠損が激増した理由について御説明願いたいと思います。

固定資産税の不納欠損は千八百四十五万六千六百三十六円と、この中でも大変多い部分を占めております。この中で、現年課税分で二百五十九万五千八百五十五円が不納欠損の処分をされておるわけでございます。現年課税分というのは一体どういうことなのか御説明を願いたいと思います。

次に、市税収入は結果的に見ますと、予算を一億一千二百七十一万八千円あまり上回ったこととなります。この市税収入が予算を上回る見通しはいつごろおつてになったのか。いつごろついたのであるかお聞かせ願いたいと思います。

次に、九ページの地方交付税についてであります。特別交付税は一億四千二百一十八万八千円が入っているわけでございますが、この特別交付税の交付理由はどのようなものであるか御説明を願います。

地方交付税は、結果的に見ますと、予算を超過すること二億三千五百三十八万八千円、大変多くなっているわけであります。先の臨時会でも大幅な四億五千万からの黒字について、市長は、黒字があまり大き過ぎることも決して好ましいことではない、このような答弁をしているわけでありますけれども、その中でも大きな部分を占めるのがこの交付税の予算超過ではなからうかと思ひ

けであります。この予算超過の見通しがいつごろついたのか、それともっとそれに対する市民の福祉の向上にその財源を有効に活用することはできなかったのかどうか、こうした点についてお聞かせ願いたいと思ひつてあります。

次に、一五ページであります。県支出金についてであります。

県支出金のうち少額というものを——たとえば、三万円未満の少額のもの、決算書の中でひろってみますと、実に十三件もあるわけでありまして。一七ページを見ていただくとわかるわけですが、身体障害者手帳交付診断料助成事業補助金ということで三千五百円、精神薄弱児親子学級事業補助金一万五千元、身体障害者日常生活用具取付費助成事業補助金一万七千五百円、民生委員推薦会交付金一万五千元、二一ページにいきますと、自衛官募集事務委託金一万九千元、千葉海区漁業調整委員会委員選挙委託金二万三千三百五十五円、統計調査の委託金の中で、事業所統計調査基本調査区設定委託金二万九千八百八十円、教育統計調査委託金一万一千九百円、世界農林業センサス事後調査委託金二万八千円、さらに二二ページにいきますと、精神薄弱者福祉法施行事務費補助金三千四百円、戦傷病者戦没者遺族等援護法事務交付金二万三千円、老人福祉法施行事務費補助金二万三千三百六十一円というわけがあります。大変に少額の補助金、県の支出金が多いのではなからうかという感想を持つわけでありまして。

県の補助金なり委託金というものは、何らの手続きをしなくても交付されるものではないと思ひつてあります。補助金の交付申請書をつくったり、あるいはその受領書を送付するなどの事務費もかかるものだと考えます。これらの事務費について計算され

たことはあるかないかお聞かせ願いたいと思います。少額の場合は場合によっては手続きをしないほうがむしろ有利だというようなことも考えられるかと思いますが、そうした点について御説明願いたいと思います。

次に、これらの補助金は、県においては当然県の担当職員がおりてありましようし、受ける側の市も人手をかけなければならぬ。お互いに間尺に合わないことを知っていてやっていることになろうかと思います。これらの補助金は整理統合し、県も事務手続きを整理すべきと思いますが、そうしたことでこれまで県当局に働きかけているのかどうかお聞かせ願いたいと思うわけであります。

次に、二四ページの寄附金についてありますが、市道舗装の工事費ということで、市道の舗装については寄附金のあるなしにかかわらず、その舗装の必要度や緊急度については市は判定すべきだと思われわけですが、その点についていかがお考えかお聞かせいただきたいと思います。

さらに、また寄附金に依存するような市道の舗装というものは早急になくすべきではなからうか、こういうふうに考えるわけですがその点についてのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、歳出に移ります。

三二ページ、市長交際費が四百十九万六千四百六円支出されておりますが、その内容についてお示しを願いたいと思います。

関連いたしまして、三一ページの議長交際費百十万一千百五十五円についても、その内訳をお示しく下さい。

次に、四一ページ、納税組合奨励金についてであります。賦課

徴収費の納税組合奨励金千三百六万五千七百円についてであります。納税組合奨励金は館山市納税等奨励規程によりますと、「年度を通じ市税等を取りまとめ納期限内に完納した組合に対し」完納奨励金として支払うというようになっておるわけであります。

「天災地変等でやむを得ない事由により納期限内に納付できないものについてその実情を調査し奨励金を交付することができ。」というふうの規定されています。問題は果たして規定どおり完納組合に対して奨励金が出されているのかどうか。その点について御説明を願いたいと思うわけであります。

次に、納税組合の徴収率について、たとえば国保税と固定資産税等を具体的に引き上げまして、納税組合の徴収率、それと納税組合以外の徴収率、こういうものを比較して、納税組合のはたしている役割を説明願いたいと思うわけであります。

次に、五七ページであります。生活保護費であります。生活保護の要保護基準以下であるが生活保護を受けていないという世帯はどのくらいあると推定をされているのか。また、そうした世帯の把握は行われているのかどうかお聞かせを願いたいと思います。

現在の標準世帯で、住宅扶助を含めて受けた場合に、月収幾ら程度がその要保護基準になるのか、具体的に聞かせください。

次に、六二ページ、じん芥処理費の賃金についてであります。臨時職員賃金ということで五百六十五万三千二百五十四円が支出をされております。この恒常的な臨時職員は現在何人いるのか。これらについて期末手当等は配慮されているのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

次に、少しもどりまして、五九ページの下のほうになりますが、下から三段目、予防接種事故対策補償費負担金についてであります。予防接種による事故があったかどうか。もし事故にあった場合、どのような補償を市民は受けることができるのか、補償の内容についてお聞かせ願いたいと思います。

七六ページ、商工業振興費の中の負担金補助及び交付金の一番最後になりますが、商工会議所補助金千七百五十万円についてであります。この補助金は、商工会議所の収入に対して何割くらいになるのか。また、この千七百五十万円の補助金の積算はどのような基準でなされているのか御説明をお願いします。

次に、九〇ページ及び九四ページの二つのページにまたがるわけですが、九〇ページの小学校学校管理費の需用費の中で食糧費として二十四万三千四百七十五円が支出されています。また、九四ページの中学校の学校管理費の食糧費として十七万九千四百五十円が支出されていますが、学校管理の中で食糧費というのは具体的にどのような使われ方をしているのかお伺いいたします。次に、九六ページであります。学校建設費で第三中学校の校舎新築工事請負費として四億三千九百八十万円が支出をされておるわけですが、第三中学校の校舎建設費にいわゆる超過負担がなかったのかどうかお聞かせを願いたいと思います。

これと関連をいたしまして、現在、第三中学校の増築工事が行われておりますが、これを同時に行えば文部省の補助対象にならないために本年度に回したとの説明が先の臨時会で行われたわけですが、そのことはそのこととして理解をするわけでありませんが、工事を一緒にした場合、工事費総額は少なくて済むのではないか

と思うわけがあります。住民の目から見れば、何でお役所はむだな仕事の仕方をするのだ、一度にやれば安く済むだろうに、こういうような疑問があるわけでありまして。一緒に工事をすれば費用が総額的には安く上がるのではなからうかというふうに思うわけですが、この点についていかがお考えか。

九二ページ、そして九六ページ両方にまたがるわけですが、九二ページのまん中へんの扶助費についてであります。五百十六万千八百九十二円ということで支出がされておるわけでありまして、就学援助の準要保護児童は小学校では何名、そして中学校では何名であったか。それぞれ全生徒数に対する割合で何％になるのかお示しく下さい。

決算書の用語では扶助費の言葉が使われていますが、就学援助法を見ますと、扶助という言葉は使わず援助という言葉を用いて、生活保護法による教育扶助と区別をしているように思うわけでありまして、こうした就学援助法にない扶助という言葉をなぜ使うのか。お考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

最後に、国保会計のほうに移ります。一一一ページになりますが、不納欠損が四百八十三万三千三百円計上されているわけですが、この欠損処分の理由について御説明をお願いしたいと思っています。以上、答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、不納欠損の激増した理由でございますが、昭和五十五年度決算における不納欠損額は、御指摘のとおり市税におきましては二千四百九十万五千三百五十八円でございまして、昨年比

約六・五倍、二千百十一万三千二百二十五円の増となっております。

不納欠損の理由につきましては、地方税法第十五条の七第四項及び第五項並びに第十八条の規定によるものの三通りがございます。これらのうち、法十五条の七第五項の事由による不納欠損が昨年度に比し増大したのが最大の理由であります。ちなみに、計数で申し上げますと、前年度は四十七万円でございましたが、本年度は一千八百二十四万二千円でございまして、一千七百七十七万二千円の増となっております。これはすべて解散、いわゆる倒産法人の分でございます。

昭和五十五年度は、特に倒産法人について、法務局、税務署等諸官庁と連絡を取り、財産調査を重点的に行い、通達、行政実例等慎重に勘案し、法令の規定に適合するものについて欠損処理をいたしました結果、このような数字となったわけでございます。

現年度分の不納欠損額でございますが、これは固定資産税で二百五十九万五千八百五十五円、都市計画税で六十五万三千三百二十五円、軽自動車税で七百万円、計三百二十四万九千八百八十円になってますが、これは年度がまいりますれば、倒産法人といえども課税をいたしますので、現年度が不納欠損ということになったわけでございます。

それから、市税超過一億一千二百万円の見通しはいつごろついたかという御質問でございますが、市税の調定、収納は日々流動的でありますので、確定する数字が判明するのは年度末でございます。しかしながら、市税のうち個人市民税、固定資産税については年度初めの課税でございますので、年度半ばでおおよその見込みがつかますが、法人市民税のようにその見込みが非常にむず

かしいものもございまして、市たばこ消費税、電気税、ガス税のように前月の実績に基づく申告があつて数字が出る税もありますので、市税のおおよその見込みが出ますのは十二月ごろでございます。

次に、特別交付税について、その交付理由は何かという御質問でございますが、特別交付税は、普通交付税の算定におきまして画一性、時期的な理由により反映することのできなかった具体的な事情を考慮して交付されるわけでございます。したがしまして、一言で申し上げますと、各地方公共団体の特殊性に基づく経費を交付対象としております。

具体的に、幾つかの例を挙げますと、現年発生災害、水源開発——水道事業等への繰出金でございますが——中学校統合、観光地であるための特別な財政需要があること、衛生センターの建設に伴い特別の財政需要があること等でございます。

予算超過二億三千万円の見通しはいつごろついたかという御質問でございますが、普通交付税につきましては、昨年八月下旬に十五億七百万九千円と決定し、さらに追加分として三月十四日に二百五十九万円が決定いたしました。

また、特別交付税につきましては、昨年十二月二十三日に四千九百三十五万三千円と三月十四日に九千二百六十六万五千円が決定され、五十五年度の地方交付税が確定いたしましたものでございます。

県支出金でございますが、補助金のうち少額なものが十三件あるが、事務手続きの費用はどの程度かかるかという御質問でございますけれども、県補助金のうち少額なものに係る事務手続き費

用は、事務、事業の内容によりまして事務処理の方法が異なり、県からの交付決定通知により交付されるもの、交付申請を行うもの、また後日実績報告あるいは精算を行うもの等がございしますが、事務手続きが比較的にかかるものであっても、人件費を含めても千円以内でできるものと考えております。

また、整理統合すべきと思いますが、県に上申しているかという御質問でございしますが、事務手続きはかからないと申ししても若干の事務はあるわけでございしますので、全県的な問題としてとらえ、今後とも県の市長会等を通じて、整理統合、メニュー化について要望してまいりたいと考えております。

市道舗装工事に関連いたしまして、寄附金についての御質問でございしますが、市道は昭和五十五年当初八百五十路線、総延長四百十七・七キロメートルでございまして、そのうち舗装延長は二百十三・七キロメートル、舗装率五一・二で未舗装市道は二百四キロメートルでございました。この未舗装市道のうち自動車通行不能——すなわち幅員一・四メートル以下のものでございしますが、この市道は百六十五・八キロメートルございまして、これを除くと三十八・二キロメートルが舗装化を望まれている市道でございました。

このような現況から、昭和五十五年度までは地元任意寄附をいたしながら必要緊急度等を勘案して舗装を実施してまいりました。昭和五十六年度からは幅員四メートル以上の市道については、年次計画により地元負担なしで全額市費により施行をいたしました。

なお、四メートル未満の市道舗装については、地元の協力によ

り四メートル道路に改良できれば全額市費で施行し、改良できない市道については、従来からの地元任意寄附という経緯もありましたので、これを一時に全廃いたしますと不公平になりますので、年次通減を実施し、全廃する方針でございます。

市長交際費並びに議長交際費の内訳でございしますが、市長交際費につきましては、支出総額四百十九万六千四百六円で、その内訳は慶弔費六十件、金額にして一〇・六％、各種団体の行事に対する祝金等百五件、一五・四％、諸会議への出席者負担金等九十一件、一五・五％、接待、中元、歳暮、みやげ等三百十五件、三六・九％、その他の広告、賛助、謝礼等が七十二件、一三％、衛生センター建設関係が十一件、八・六％でございします。

議長交際費につきましては、支出総額百一十萬一千五百五十四円で、その内訳は各種団体の諸行事六十件、四五％、慶弔費関係十九件、一〇％、接待費関係二十一件、一三％、その他が十八件、三二％でございします。

次に、納税組合奨励金の効果でございしますが、現在市内には納税組合は二百十組合、加入世帯七千三百三十六世帯がございまして、市税納入の大きな自主納税組織でございします。

昭和五十五年度納税組合より納付された税額は、固定資産、都市計画税、市民税、軽自動車税の一般市税は六億四千六十二万八千円で、収入済額の二一・三％、国保税は三億九千六百六十二万七千円、収入済額の五五・七％、合計十億三千二百二十五万五千円となっております。

普通徴収に対しまして納期に確実に納入されますので、市財政に与える影響は大変大きなものでございます。

いずれも、これは完納している組合に対して交付しているものとございます。

次に、民生費の生活保護についての御質問でございますが、要保護基準以下であるが生活保護を受けていない世帯はどのくらいあると推定できるかという御質問でございますが、御案内のように、生活保護法による標準世帯の生活扶助基準額は十一万六千八百十二円でございますが、市内の所得者のうちこの額を下回る方もあるかと存じますが、保護対象者となりますと、収入額はもちろんでございますが、その家庭の資産、能力、その他の活用等さまざまな要素が影響してまいりますので、単に収入額のみで判断することは至って困難であります。保護は本人の申し出を原則としますが、担当地区の民生委員からの要請等があれば実態を調査し、該当すれば保護いたしておりますので、結果的に基準以下であるが保護を受けていない世帯はないと考えております。

じん芥処理費の賃金のうち、恒常的な臨時職員は何人か、期末手当についてはどうかという御質問でございますが、じん芥処理場における五十五年度の臨時職員賃金は、運転業務を兼ねる職員については日額四千三百円、その他の職員は四千元、高校生は三千三百円でございます。

職員数は、五十五年度末現在、日々雇用職員として四名雇い上げております。

期末手当については、規則により支給しておりません。

次に、予防接種事故対策補償費負担金についてでございますが、昭和四十六年度以降発生はございません。

補償の内容は、死亡給付が千七百七十八万五千元、廃疾給付は一

級から三級まででございますが、第一級が千七百七十万円、第二級が七百六十万円、第三級が五百七十万円でございます。療養給付につきましては、医療機関に支払う額でございます。

商工会議所の補助金でございますが、五十五年度は一千七百五十万円補助しております。この内訳は、商工会館建設に対する補助と、小規模事業指導等に対する補助の二種類でございます。

商工会館建設補助千二百五十万円は、会館建設総額三億五千七百九十万円に対して三・五割の収入割合となります。また、小規模事業指導等に対する補助五百万円は、会議所会計収入額に対して七・二割の割合になり、補助対象事業費の二分の一を限度として補助を行ったものでございます。

次に、小、中学校の学校管理費の食糧費についての御質問でございますが、その内容は、九〇割は来客用のお茶代でございます。あとの一〇割は講師等の中食代でございます。

第三中学校の建設費について超過負担はないかという御質問でございますが、第三中学校校舎の新築面積は五千六百四十八平方メートルで、実施単価は一平方メートル当たり十二万七千九百円でございます。文部省補助単価につきましては十二万七千九百円限度いっぱい補助がついております。したがって、超過負担額は一平方メートル当たり九円でございます。

現在、増築を行っておりますけれども、補助金が得られなければ工事は実際にはできませんので、特に一緒にしたら安く上がったんだろうということは想像はできませんけれども、計算はその段階でいたしませんでした。のちほど、またこの点につきましては御質問があれば教育長のほうからお答えいたします。

就学援助児童生徒は小学校で何名、中学校で何名かという御質問でございますが、就学援助児童生徒数は、小学校では要保護児童四十名、準要保護児童八十九名、合計百二十九名で全児童数の二・三％、中学校で要保護生徒二十九名、準要保護生徒六十一名、合計九十名で全生徒数の三・八％でございます。

対象児童生徒の把握につきましては、学校長と十分な連絡を取り、福祉事務所及び地区民生委員の協力を得て、遺漏のないよう万全を期しております。

なお、就学援助と扶助の関係でございますが、準要保護児童については扶助という言葉が適当であると考えているところでございます。

国保会計でございますが、不納欠損の理由につきましては、地方税法第十五条の七第五項によるもの六万円、及び第十八条によるもの四百七十七万三千円で、ほとんどが第十八条、いわゆる時効による欠損であります。

時効となった理由につきましては、財源を確保すべく徴収に努力をしてきたわけでございますが、財産のないもの等が多く、滞納処分ができず、徴収不能となり、時効になったケースでございます。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君）　まず、欠損額の大変多い、激増した理由については、会社倒産によるものが大変多いというような御説明ですが、この内容について、また別の機会に、具体的な理由別に、あるいは件数、欠損金額を示していただき、さらに検討してみたいというふうに思います。

それと、四億五千万の大きな黒字ということで、それぞれに、歳入の面では、予算を大幅に上回るということが、それぞれの時期に、判定なり見通しが立っていく時期があったかと思うんです。この問題について、積極的にこの財源を市民福祉に使うということについてお考えがなかったのかどうか。こうした結果になったことについては残念に思うわけで、逆にうがった見方をすれば、大幅な黒字をして来年度以降の財源にしようというお考えだったのか、このへんについてお考えがどうだったかということをお聞かせ願いたいと思います。

県の少額の支出金については、県に働きかけをしていくということですから、そういうことでぜひこうしたものを整理していくということをお願いしたいと思います。

寄附金についても、大変前向きな答弁をいただきました。了解いたすものでございます。

それと、市長交際費について、あるいは納税組合の奨励金について了解をいたします。

生活保護費についてであります。確かに十一万なにかしというような金額が基準になるというお話で、それ以外のいろいろな要件もあるから把握しにくいという、そのこと自身についてはわかりますけれども、だからといって、現在そうした人はいないというの、そういう判断はちょっと違うんじゃないかという事です。この問題についてもこれ以上答弁を求めません。

じん芥処理費の臨時職員の賃金問題で、日々雇用四名で日額四千三百円、あるいは四千円というようなお話がありましたけれども、これは規定によって期末手当、あるいはそれに類したものを

払わないというお話なんですけれども、臨時職員については特別割増賃金を——三月一日、六月一日及び十二月一日に任用されている臨時職員に対しては、市の職員に準じて期末手当、勤勉手当を支給するというような規定があるようですが、特別割増賃金というものは、この賃金の中に、払っていないということですかお聞かせ願いたいと思います。

それと、この臨時職員の身分の問題について、臨時職員には臨時的任用職員、あるいは常勤的任用職員等いろいろ区分があるようではありますが、これはどういうような区分に属することになるのかお聞かせ願いたいと思います。

予防接種の事故対策補償負担金についても、説明で了解いたします。

商工会議所の補助金についても、了解いたします。

小学校、中学校の問題ですが、確かに第三中学校の建設で、増築を行うということで、補助金の問題から見れば当然補助金がつかないということで翌年度に繰り越したということはわかるわけですが、しかしながら、国の補助の仕方が年度ごとにこまかくやるということ自身、これは総括的に見た場合には大変むだ使いではなからうかというふうな懸念を持つわけです。そうしたことにについて、市長さんのお話では計算はしていないということでありましたけれども、ひとつどれくらいの問題になるか計算をぜひしていただいて、その結果大きな問題としてあればそうした点も指摘して、国のほうに働きかけていく、そういうことも必要ではなからうかと思うわけですが、こうした点についてもお聞かせ願いたいと思います。

それから、就学援助の問題であります。どうも言葉の問題で、答弁がはつきりわからなかったんですけれども、生活保護では教育扶助ということで教育扶助費の中で支払われています。ここでいう就学援助法に基づくものでは扶助という言葉は別に使っていないわけなんです。なぜ、こういう就学援助ということでされて教育扶助との区分なりはつきりする必要があるんではないか、こういう趣旨なんですけれども、そのへんもう一度御答弁お願いいたします。

いまお話を伺いますと、準要保護が小学校で八十九人、中学校で六十一人、要保護含めて小学校が二・三％、そして中学校が三・八％という数字であります。国の就学援助法の援助率というのは七％で予算措置をしているんだというふうに国のほうではいつているわけです。この七％ということから見れば大変把握が違うんじゃないかならうかという感も持つわけがあります。

さらに、言いますと、生活保護における教育扶助、これは三％見込んでいるといえますから、両方合わせれば一〇％になる。それから比べると大変少ない数字で、把握の問題について大変手ばかりがあるんじゃないかというふうに思うわけです。

それで、具体的に、生活保護法の保護の停止または廃止、こうしたことがあった場合とか、それから市民税の非課税、市民税の減免、事業税の減免、固定資産税の減免、国民年金掛金の減免、国保税の減免または猶予、児童扶養手当の支給、世帯更生資金による貸し付け、こうしたものが当該年度または前年度にあった場合は、この就学援助の対象にしなければなりませんよ、そういう世帯を就学援助するように予算措置しますよ、ということにな

っているわけですから、当然これについての把握が正確に行われているか疑問に思うわけなんですけれども、具体的にどのように行われているか御説明願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 確かに五十五年度の決算におきまして、四億を超える黒字決算になったわけでありまして。私、先般申し上げましたように、決算では黒字を出すことは必ずしも望ましいこととだけは言えないとは考えております。

ただ、御案内のように、国が財政再建をしなければならぬという、非常に窮迫した状態になっております。そうした国の財政状況を受けまして、地方財政も四十八年のオイルショック以来、大変窮迫をいたしているわけで、地方財政計画に基づきまして毎年一兆円以上、多い年には四兆円を超す赤字が出ました。そのほとんどが建設債、地方債で賄ってまいりました。その結果、全国の地方自治体がすべて大幅な債務超過ということになって、年々起債がふえていくわけです。そういう意味で、館山市におきましてもその例に漏れず大変多額の起債をいたしているわけでございます。

そうした事情を考えながら、今後の財政運営を考えますと、やはり財政調整基金とか減債基金とかいろいろな形の積み立てをしていく必要があるかと思えます。それが財政健全を、こうした国の地方財政計画を受けて、地方自治体が今後の財政を防衛する一つの大きな方法ではないかと考えております。四億を超える黒字になりましたけれども、それをひとつ財政調整基金として積み立てていきたいというふうに考えております。

○総務部長（石田雄一君） 御答弁申し上げます。

六二ページじん芥処理費のうちの賃金の関係でございますが、まず第一点の規定に関する問題でございますが、これにつきましては館山市臨時職員の給与、勤務時間及び勤務条件等に関する規則がございまして、この規則ののっとっての定義づけをしているわけでございますけれども、一応臨時職員につきましては非常勤職員に準ずる職員として、日々雇用職員としての雇い上げをしているわけでございます。

なお、特別割増賃金の関係でございますけれども、日々雇用職員ということで、時間的任用職員というような定義づけをしている関係で除外しているものでございます。

○教育長（安田豊作君） 三中の建築について、いまやっているのを二年前に一緒にやったほうが安く上がるんじゃないか。ここにこまかい資料がありませんのであれですが、単価からいくと上がっていますから二年前にやったほうが安くなるんじゃないかと思えますけれども、物価の上昇、その他もう少し検討しないところではつきり答えられませんが、御趣旨のそうしたことが国の時点まで考えたときに得策だということがあったら、具体的に資料をもって話してみたいと思えますが、ただ国にしても、県にしてもまた市にしても予算ということで検討しているわけでございますので、こそこだけそういう考え方でやるというわけにはなかなかいかないと思いますが、御趣旨はよくわかりました。

それから、就学援助費の認定について落ちがあるんじゃないかということですが、把握についてですが、前々から神田議員さんにはいろいろ御質問いただいておるので調査をしてみました。五十五年度は準要保護、要保護ともに二・七％が本年度は三・一％

わずか○・四角ですがふえているということでございます。これが全県的にどういうことになっているかといいますが、全県的にみたとときに多いほうから五番目です。ですから決して手抜きかといいますが、数の上からみて館山の認定が落ちてきているような考え方はこれからも出ないと思います。

それから、前々から条例をつくって認定にあたったらどうかというところで、条例をつくっているのは野田市一市です。野田市はこういう順位からいきますと二十八市のうち十四位というわけでございます。そういうことで、ここにあります十五項目の認定の考え方といいますが、見方をもとに、学校とそれから福祉事務所、民生委員、学校長と話し合って決めておるわけでありまして。そういうことでいまこういう数になっております。そうした御趣旨はよくわかりましたから検討してみたいと思いますが、精いっぱい落ちのないひろい方をしている、こういうふうに考えております。

○一番（神田守隆君） 市長の答弁は答弁として、起債とのバランスということも一つの見方として大切なことだと私もそういうふうに考えているわけですが、さらにそうした中でも市民の福祉の向上、そういうことに十分配慮していただきたいということで、この問題については終わります。

それと、じん芥処理費の臨時職員の問題ですが、日々雇用だということになると、いわゆるパートということ、大変不安定な身分であるというふうに考えざるを得ないわけです。実際には継続的に六カ月ないし一年とか、あるいはもっと長く勤めている方もおるんじゃないだろうか、そういうふうに思っていますけれども、そうした実態からすれば、こうしたパートというような時間的任

用職員というところで考えるのはどうかと思うんです。やはりそれだけの現実の仕事をやっているし、またそれだけの仕事があるわけですから、そのへんについてやはり考えるべきじゃないだろうかというふうに思っていますけれども、そのへんについての考えがないのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

それと、第三中学校の問題についてはお願いを申し上げ……。就学援助の問題ですが、ひとつ具体的にお聞かせ願いたいのは、先だって私のところに相談に来た方で、児童扶養手当を受給されている、しかし就学援助は受けていなかったという方がおるわけです。そういうことから具体的にみますとかなり漏れがあるんじゃないだろうかという感を強く持つわけです。児童扶養手当の支給は二百何世帯であるかと思うんですが、そういう世帯全部を教育委員会のほうで名簿をとって、この中で義務教育を受けている子弟のいる家庭を具体的にチェックされておりますか。

さらに、歳入でみましたように、大変な不納欠損が出ているわけです。こうした事態からみても——不納欠損というのは別の問題になりますけれども、市民の税の免除あるいは減免、こうした事態というものもかなり今後起きてくることも考えなければなりません。それに類する事態にある家庭も多いというふうにみて差しつかえないかと思うんです。そうした点から見れば、当然市民税の減免なり——収納課になりますか、そうしたことが具体的にあった場合、そうしたものは全部教育委員会——市民税の非課税世帯の名簿、そうしたものについて全部チェックをされているのかどうか。そうした減免とか猶予になった方々の名簿、そういうものが全部教育委員会のほうに提出されているのか。これはそういう

ふうにしなさいということでも国の通達にも出ているわけです。そういう協力を福祉事務所等はしてくださいという形で出ているわけです。そうした手続きが具体的にされているのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 臨時職員、特に正木処理場につきましては収集業務という非常に大変な仕事をしているわけでございますけれども、ただあくまでも辞令の段階におきましては非常勤職員という形におきましての採用をしているわけでございまして、それが日々更新されているという実態があるわけでございます。しかしながらそういう職員の中にも勤務の成績等々勘案いたしまして何名かの採用ということも考えているわけでございますけれども、将来的にはいわゆる第二清掃センターでございまして、という問題もございまして、あるいは場合によっては委託という問題も広い観点から検討していくということで、現時点におきましてはいままでどおりの身分によっての仕事をお願いしたい……。○教育長（安田豊作君） 生活保護の家庭の名簿、その他のチェック、それから解除になったものについての連絡は遺漏なくやっているつもりでございしますが、そういうことに関係なく、教育を受けるのに困る家庭についての援助という形でチェックをしますが方向的にはちょっと違いますが、さらに検討してみたいと思います。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長（林 豊君） お諮りをいたします。

ただいま議題となっておりまして昭和五十五年度各会計決算につきましては、十人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。

ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第四条第一項の規定により、

一四番議員 渡辺 昭夫君 一五番議員 伊藤幸太郎君

一七番議員 黒川 平治君 一八番議員 流山源次郎君

一九番議員 石井 輝久君 二一番議員 吉田勇治郎君

二三番議員 菊井 敏博君 二五番議員 五十嵐 昇君

二六番議員 伊賀 多朗君 二八番議員 安澤 徳順君

以上十人を指名いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よってただいま指名いたしました十人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することと決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員の方々、のちほどこの議場において正、副委員長長の互選を行いますので、御了承を願います。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、請願第三号農地固定資産税に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（二五番議員五十嵐 昇君登壇）

○二五番（五十嵐 昇君） 請願第三号について御説明申し上げます。

農地固定資産税に関する請願書が館山市農業協同組合長佐野一夫氏ほか八百四十八名の署名をもって提出され、その紹介議員として拙者以下五名の議員諸公の連名をもって提出されましたが、請願理由にもありますように、本件は農畜産物の生産過剰と同時にこれが調整のため国家機関によって水田耕作面積の編成がえとなり、好むと好まざるとにかかわらずその縮小を余儀なくされると同時に、その米の価格も統制されている現状であります。農地が国民的、生存的な財産であるとの見解からするならば、農業すなわち農家経営が安定した状態において営まれ、自給自足のできることが国家経済上まことに必要な緊急事であると信じてやまなものであると思います。

かかる見地から、国民的、国家的立場からいたしまして、御理解のもと、適切なる農業政策が樹立される必要があり、農民が安

心して農業に従事し、平穩裏に国民的、生存的食糧を供給できる抜本的政策が樹立されなければならないと信ずるものであります。

そこで、第一の一般農地につきましては、税の公平負担の原則に立脚することはもちろんであります。が、特殊事情、ことに農作物の生産資材価格の急激な上昇、水田利用再編第二期対策、農畜産物の価格の不安定等、加えて昨年末の冷害等の自然的災害などをまともに受けやすい農業の特殊事情を御考慮に入れていただきたい。課税額を抑えていただきたい。

第二に、宅地並み課税につきまして申し上げますが、当市においての宅地並み課税は実施されておらず関係はありませんが、将来のことを思い考え合わせて十分なる御考慮のもと、国家的営農思想の涵養に努めると同時に税制上の法の必要上、農地課税として賦課されるよう国家機関に対する働きかけをお願い申し上げますとともに、関係各省に折衝されるよう切望してやまない次第であります。

私は、かかる見地から、この請願を採択していただきますよう紹介者を代表して、満場の議員諸公の御賛成を切にお願い申し上げます。

ただいまの私のお話の中で、提出ということが出てまいりましたけれども、提出はどこまでも佐野組合長の名においてすべきものでありますので、その点を削除していただくよう訂正いたします。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

委員 会 付 託

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては、総務委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第五、請願第四号臨調答申に反対する意見書の提出を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願書について紹介議員の説明を求めます。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 臨時行政調査会の第一次答申に反対する意見書の提出を求める請願について紹介の理由を申し上げ、議員の皆さま方の御賛同を賜りたいと存じます。

去る七月十日に第一次答申が出されるや異例の早さで地方制度調査会が緊急意見書を七月三十一日に鈴木首相に提出しています。全国知事会も七月二十日、全国市長会も七月二十八日にそれぞれ臨調答申を厳しく批判する決議をしています。さらに、二百人を超える国立病院療養所長らが憂慮の表明をし、去る九月十一日には臨調路線に反対する連絡会議も全国的に結成をされました。

こうした反対の声がいち早く巻き起こっているのは、臨調答申の内容が国民の期待する行政改革ではないどころか、福祉切り捨

て、国民負担増の国民犠牲のものになっているからです。

答申内容がどう具体化されようとするかは予断を許しませんが、これが完全実施をされると、市民生活と市財政に重大な影響を及ぼすことは明らかであります。社会保険料などはぞくぞく値上げをされますし、福祉切り捨ても露骨です。老人医療費の無料制度の廃止で老人も病院に行きづらくなるでしょうし、保育料の引き上げで父母の負担増も大変であります。教育関係費も大きく削られ、四十人学級は全面ストップとなります。中小企業のための予算も削減され、土地改良費が大幅にダウンし、転作奨励金がばっさり削られるなど、農家の打撃も深刻です。地方自治体も財政負担の肩がわり、補助金カットなどで、地方自治も財政的に突き崩されかねません。増税なしということを言っていますが、実際には物価高にに応じて当然行われるべき所得税の減税もないために、来年は実質増税三兆円にもなるうかと思われまます。

このように、行政改革を錦の御旗に国民に総がまんを押しつける一方、軍事費は聖域化され、来年度予算編成でも七・五割もの増が優先して認められています。国民本位の行政改革は軍事費を削るとともに、むだや不正、腐敗の根を断ち、簡素で効率のよい行政機構に改革するものでなければなりません。さらに、大企業優遇の不公平税制をただすなどして、抜本的な財政再建を図るべきであります。

行政改革のあり方については、さまざまの意見の違いがありましよう。しかし、国民犠牲のこの臨調答申に反対する請願については、そうした立場の違いを越えて御賛同を賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願いをいたしまして、紹介の理由とさせていた

だきます。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

委員会付託

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては、総務委員会に付託いたします。

延 会 午後二時三十五分延会

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明九月十九日から九月二十五日まで委員会審査のため休会、次会は九月二十六日午前十時開会といたします。その議事は議案第四十四号乃至議案第四十七号及び認定第一号乃至認定第七号に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは、九月二十六日午前九時まででありますので、申し添えます。

○本日の会議に付した事件

一、議案第四十五号乃至議案第四十七号

二、認定第一号乃至認定第七号

一、決算審査特別委員会の設置、付託、委員の選任
二、請願第三号及び請願第四号

